

平成23年度 大津百町・登録有形文化財調査一覧 【1～5 答申中、6 申請未、1,2 昨年度調査】

1-1 中野家住宅主屋 明治5年(1872) [伝承]

木造2階建、瓦葺、建築面積 166.20㎡

江戸末期に中堀町に分家し、明治15年から昭和14年まで米問屋「中庄」を営む。元つし2階建の奥行き深い大規模な町家で、昭和9年の軒切りで、この時期の特徴である御影石磨き仕上げの腰壁と鉄格子の出部屋が造られ、2階が居室化した変遷を残す。



1-2 中野家住宅離れ 明治末期 [推定]

木造平屋建、瓦葺、建築面積 52.50㎡

主屋のニワから出入りするように造られ、公共の空間からは望見できない隠居用の離れ座敷。6帖と10帖広間の続き間から、縁先を挟んで庭が見え、濡れ縁伝いに上便所が設けられている。明治期の商家の隠居として重要な建物である。



1-3 中野家住宅土蔵 明治初期 [推定]

土蔵造2階建、瓦葺、建築面積 23.33㎡

主屋の背面に位置し、公共の空間からは望見できないが、大津では珍しい本瓦葺であるが、軒先は棧瓦の軒瓦を用いている(後年の補修か?)。出入口の鳥居枠の意匠や、持ち送りの意匠が美しい小庇から、格調の高さが伺える。



2-1 中野家住宅主屋(でんや) 明治43年(1910) [棟札]

木造2階建、瓦葺、建築面積 76.03㎡

棟札から、北川家や魚忠(旧中野家本家)と同じ大工棟梁横井勝治郎が手がけたことが判っている。南隣の中野家が、米問屋の番頭宅として建てたと伝わる。昭和初期に軒切りをしているが、木格子を残していると考えられる。



3-1 木村家住宅主屋 明治初期 [推定]、

木造つし2階建、瓦葺、建築面積 97.67㎡

江戸後期まで材木商を営んでいた木村家は複数の貸し家や材木納屋などを所有していたが、主屋と土蔵の2棟が当時のまま残る。道路幅がなかったため、つし2階建、虫籠窓など江戸末期から明治初期の町家遺構がそのまま残る。



3-2 木村家住宅土蔵 明治初期 [推定]

土蔵造2階建、瓦葺、建築面積 12.72㎡

主屋の背面に位置する。屋根は、軒、けらばを出し、軒裏は漆喰で塗り籠めた土蔵。梁間2間、桁行2間(3.9m×4.8m)の小さな土蔵であるが、出入口は重厚な鳥居枠を持つ。



4-1 太田家住宅主屋 明治3年(1870) [墨書]

木造2階建、瓦葺、建築面積 117.35㎡

瓦の一大産地として有名だった松本村にあり、旧東海道に面する。道路拡幅がなかったため、建設当初の町家遺構がそのまま残る。江戸後期から明治初期の町家の特徴であるぼったり床机が大戸と出格子の間に残り、2階建であるが、通りに面する部分は虫籠窓、袖卯建も残る貴重な町家遺構である。



4-2 太田家住宅塀 明治初期 [推定]

木造高塀、瓦葺、建築長さ 7.28m

主屋の西側の通りに面して、庭と通りとの境に建てられている。自然石の石積みの上に建ち、塀瓦が使用され、軒先が道路に、はみ出さないように道路境界から約1尺(約30cm)ほど、控えられている。角地に建つ町家によく見られる形式の高塀である。



5-1 川嶋家住宅主屋 昭和初期 [推定]

木造2階建、瓦葺、建築面積 62.04㎡

隠居住宅として建てられた建物で、いつ頃建てられたかはつきりしないが、明治後期から昭和初期と考えられる。規模の小さな建物であるが、内部に大広間を持ち、大津の商家の旦那の文化的嗜好や趣味の影響があちこちに感じられる建物である。



5-2 川嶋家住宅土蔵 明治後期 [推定]

土蔵造2階建、瓦葺、建築面積 31.69㎡

大津では珍しく、通りに直接面して建つ土蔵。主屋と並んで通りから望見できる景観も印象的である。梁間2間、桁行3間半(3.8m×6.7m)で、大きな切石の基礎の上に建つ。出入口の鳥居枠、小窓の小庇に設けられた、塀瓦と繊細な意匠を施した左官仕上げの持ち送りが、質の高い土蔵であることを示している。



6 阪本屋 昭和11年(1936) [文書] ※未申請

木造2階建、瓦葺、建築面積 251.40㎡

明治2年(1869)に膳所木下町の膳所藩お抱えのご用料亭「本家阪本屋」から鮎寿司の販売を専門に行う店として分店。北国海道に面して建ち、昭和初期の道路拡幅を機に、東隣の敷地を購入し、二敷地分の土地に新築された。当時の当主の好みが見られ、優れたセンスを持つ大工棟梁山梨政造の手による貴重な町家遺構。

